

アンケート調査の分析による歴史まちづくり計画を基盤とした地域活性化に関する研究

研究年度	令和5年度
研究期間	令和5年度～令和5年度
研究代表者名	平岡 透

1. はじめに

本研究では、長崎市東山手・南山手地区における歴史まちづくり計画への貢献を目指し、以下の二つの現地調査を行った。

- ① 長崎市東山手・南山手地区のサインの現状調査（2023年6月3日実施）
- ② 長崎市東山手・南山手地区のサインの視認率の調査（2023年7月23日実施）

さらに、長崎市への観光客の満足度向上を図るために、観光客の個別満足度が総合満足度にどの程度影響しているかを観光客属性別に相関分析を用いて調査した。また、観光客属性に応じて得られる相関係数を推定する方法も提案した。

2. 長崎市東山手・南山手地区のサインの現状調査

東山手・南山手地区のサインの現状調査は、2023年6月3日に実施した。調査の結果、サインの老朽化による視認性の低下や設置場所による視認困難が課題として挙げられた。また、現行の案内サインの言語表記に不均衡が見られた。東山手・南山手地区の案内・誘導サインの一例を図1に示す。



図1 案内・誘導サイン（大浦天主堂・グラバー園付近）

3. 長崎市東山手・南山手地区における現地調査 [1]

東山手・南山手地区の案内サインの計測は、2023年7月23日の10:00から17:00に行った。この計測では、東山手・南山手地区内の4箇所の案内サインを対象にした。それぞれの案内サインは、オランダ坂（以下、案内サイン1）、旧香港上海銀行長崎支店記念館の横（以下、案内サイン2）、浦上天主堂とグラバー園の付近（以下、案内サイン3）、路面電車の石橋駅の横（以下、案内サイン4）に設置されている。計測では、1時間毎にそれぞれの案内サインの前を通過した人の数（以下、歩行者数）と、案内サインを立ち止まって見た人の数（以下、閲覧者数）を計測した。さらに、歩行者数に対する閲覧者数の割合（以下、視認率 [%]）も求めた。

全時間帯の視認率は、案内サイン2で4.8%であり、それ以外の案内サインでは8.6%から9.8%であった。案内サイン2は他の案内サインと比較して視認率が低く、歩行者数も案内サイン1と同程度である

が少なかった。すなわち、案内サイン2は他の案内サインと比較して設置効果が低いと考えられる。案内サイン2は国道499号の歩道に設置されており、また他の案内サインと比較して主に地図で構成され、観光施設などの写真が小さく掲示されている。そのため、視認率を上げるためには、案内サインに観光施設などの写真をわかりやすくかつ多く用いることが効果的と考えられる。

各時間帯の視認率において、すべての案内サインで12:00-13:00または13:00-14:00にピークがあり、10.0%以上となった。特に、案内サイン1において、12:00-13:00の視認率が20.4%と非常に高い値となった。この理由は、この時間帯には観光客の割合が多く、多くの観光客がオランダ坂に興味を持って訪れたためであると推測される。また、案内サイン4において、11:00-15:00の4時間のすべての時間帯で視認率が10.0%以上となった。この理由は、路面電車を利用した人の内、観光客が多く、これから観光地を訪問する際の参考にしているためであると推測される。以上から、観光地へのアクセスポイントに隣接して案内サインを設置することが効果的であると考えられる。

4. 長崎市への観光客の総合的な満足度と個別満足度の相関分析 [2]

長崎市を観光都市として取り上げ、観光客の満足度向上を目指すために、観光客の個別の満足度（以下、個別満足度）が総合的な満足度（以下、総合満足度）にどの程度影響しているかを調査した。この調査では、観光客の属性や旅行の内容（以下、観光客属性）別に相関分析を用い、個別満足度と総合満足度の関連性を探った。

本研究では、2020年9月25日から9月28日の期間に長崎市を訪れた観光客を対象としたインターネット上でのアンケート調査データを使用した。この調査では、総合満足度と考えられる11項目の個別満足度、4項目の観光客属性、および2項目の旅行の内容に関する回答を得た。アンケート調査への回答者は1530人であった。

全データを用いて、総合満足度と11項目の個別満足度の相関係数をそれぞれ求めた。また、総合満足度と個別満足度の相関関係を検証するためにt検定を行った。その結果、すべての個別満足度において、有意水準1%で総合満足度との間に相関関係があることが示された。相関係数はすべての個別満足度において0.5から0.7の間にあり、特に「観光施設の魅力度」と「安心感・治安」の項目の相関係数が比較的大きかった。

また、観光客属性別に、総合満足度と11項目の個別満足度の相関係数を求めた。相関係数のt検定の結果、すべての場合において、有意水準1%で総合満足度と個別満足度の間に相関関係があることが確認された。全体的に見て、観光客属性によっては総合満足度と個別満足度の相関係数にばらつきがあることが明らかとなった。すなわち、観光客属性によって観光客が重視する要素が異なると考えられるため、観光客属性に応じたプランを立案することで、観光客の総合満足度向上につながると推測される。そのため、観光客属性に応じて総合満足度と個別満足度の相関係数を推定する方法も提案した。

5. 研究成果

- [1] 平岡透, “長崎市東山手・南山手地区における案内サインを立ち止まって見る歩行者の割合の調査”, 地域活性研究. (投稿準備中)
- [2] 濱崎正一, 平山広孝, 平岡透, “長崎市における観光客の総合的な満足度と個別の満足度の関係分析”, 産業応用工学会誌. (採録決定)